令和５年度 第２回 教育課程編成委員会　議事録

日　　時　：　令和６年３月14日(木)　11時00分～12時00分
場　　所　：　多摩リハビリテーション学院専門学校　学院ホール201教室
教育課程編成委員：林義巳学院長、岩戸徹副学院長兼教務部長、（作業療法学科）清水誠学科長・中村晃一主任・横濱秀征副主任、（理学療法学科）佐藤譲司学科長・成塚修一主任、（言語聴覚学科）木村欣司学科長・西片裕主任、（介護福祉学科）鈴木健二朗学科長・竹内克主任、藤枝幹大主任、黒田英寿事務長(青梅商工会議所常議員)、景山雄介広報課長、師岡静枝情報システム課長、大堀隆二氏(社会福祉法人一石会統括施設長、青梅商工会議所常議員)、鈴木康雄氏(医療法人社団和風会リハビリテーション部長・PT)、人見太一氏(杏林大学)、池田健祐氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科技士長・OT)、赤松栄晃氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科課長・ST)、委員20名

記

１．検討議題
＜議案１＞外部委員の再任の件
　今回の外部委員の方は、2024年３月31日までの２年間が任期となります。
　次回の任期は、2024年４月１日～2026年３月31日までの２年間です。
←外部委員全員の承認を頂いた。

＜議案２＞建学の精神・教育理念・４つのポリシー等の整備の件
←外部委員全員の承認を頂いた。以下がその内容である。

多摩リハビリテーション学院専門学校の教育
【建学の精神】
「地域の医療福祉に貢献する人材の育成」
　障害を抱えていても年老いても住み慣れた街で暮らしていけるように、医療福祉は病院中心から地域へと移行し、地域コミュニティを大切にする価値観も見直されている。そこでは、地域の医療福祉のあらゆるサービス体制を整える必要がある。そのため、地域の医療福祉を積極的に推進できる人材の育成が求められている。本校は、地域に貢献できる医療福祉の専門知識・技術を身につけた人材を社会に送り出すことを使命とする。

【教育理念】（本校は以下の精神を養います）
・常に患者様のことを思い。
・常に努力を惜しまず。
・常にネバーギブアップ。
・そして謙虚な気持ちで、感謝・感謝・感謝。

【教育目標】
１．他者を尊重することによって、謙虚さと感謝の心を育てる。

２．目標に向かって互いに協力し、チームワークの精神を育てる。
３．勇気をもって立ち向かうことで、あきらめない気持ちを育てる。

【教育方針】
１．学生の可能性を信じる教育を行います。
２．心身ともに健康な生活を実践する教育を行います。
３．常に目標を掲げる教育を行います。
４．モチベーションを高める教育を行います。
５．良好な人間関係を築く教育を行います。

【アドミッションポリシー】（入学者の受け入れ方針）
１．優しく、思いやりのある人を求めます。
２．目的意識と向上心をもった人を求めます。
３．職業理解があり社会に貢献したい人を求めます。

【カリキュラムポリシー】（教育課程の編成及び実施に関する方針）

作業療法学科
3 学年：チームの一員として自らができることを考え、対象者に寄り添える力を育成する。
2 学年：積極的に周囲とかかわり、作業療法の専門的な視点から対象者を理解する力を育成する。
1 学年：自主的な学習態度、専門職の理解、コミュニケーション能力を育成する。

理学療法学科
3 学年：対象者に寄り添い、問題解決に惜しみない力を発揮するための専門知識・社会性を育成する。
2 学年：これまでに修得した知識や社会性をもとに理学療法を実践できる力を育成する。
1 学年：幅広い知識ならびにコミュニケーション技術を修得するために自発的な行動ができるよう育成する。

言語聴覚学科
2 学年：
①対象者やその家族と真摯に向き合う力を育成する。
②自己の問題点に対し、改善に向けて努力する力を育成する。
③対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てる力を育成する。
④リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる力を育成する。
1 学年：
①対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション・態度・技術を育成する。
②自己の問題点を客観的に認識できる力を育成する。
③言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害についての知識を育成する。

介護福祉学科
2 学年：介護福祉に関する課題を主体的に解決し、介護福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育成する。

1学年：介護福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得し、介護福祉の理念と意義に基づいて考えられる力を育成する。

【ディプロマポリシー】（卒業までに身につける能力、卒業認定の方針）
作業療法学科
・専門職としての態度・知識・技術を身につけ、対象者に寄り添い、多職種と連携し、課題を解決しようと努力し続けることができる。

理学療法学科
・自ら学ぶ力を基盤とした基本的理学療法に必要な知識・技術ならびに社会性を身につけている。

言語聴覚学科
①言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。
②言語聴覚士として必要な知識・技術を習得しようとする探求心や、自ら問題を解決しようとする積極性を身につけている。
③科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる。
④リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力することができる。

介護福祉学科
・基本的な介護福祉の知識と生活支援技術を習得するとともに“優しさ”“思いやり”といった精神面の豊かさを身につけている。

【アセスメントポリシー】（学修成果の評価に関する方針）
１．達成すべき質的水準
(1)　客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組
　成績評価は、100点満点として90点以上をS、89点から80点をA、79点から70点をB、69点から60点をC、59点以下をDとし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格としている。
　学業成績は、授業科目ごとに行う試験やレポート（100点満点に換算）によって評価される。
　学業成績を総合的に判断する客観的指標として、グレート・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値をいう。以下「GPA」という。）を算出する。
　本校では、学科での履修指導、奨学金等の学生生活支援、成績優秀者の表彰等に活用している。
(2)　卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組
　学則において「卒業認定」、履修細則において「進級及び卒業の認定」を規定している。各学科の教育課程に定められているすべての科目について、単位を認定された者が各学科の教員会議にて協議され、学院長が決定する。
　本校では、アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、ディプロマポリシー（卒業までに身につける能力、卒業認定の方針）を策定し、検証を行っている。

２．アドミッションポリシーに対する検証
・入学試験時におけるエントリーシートの分析、個別面接の成績により、将来、医療福祉分野で働く素養を持ち合わせているか検証を行う。

・入学後に全ての学生に対して、学生の特性や資質を把握することを目的に、個別面談を実施する。また、補助手段として行動特性検査（自己発見検査等）を行い、その結果と合わせて、本校が求めている人材であるか検証する。

３．カリキュラムポリシーに対する検証

・「授業評価アンケート」における満足度や達成度の結果、またスクールライフアンケート調査の結果をもとに、本校が求める知識・技術・態度が身に付いているか検証する。

・臨床現場での実習成績や学生本人の実習体験での感想から、本校が求める知識・技術・態度が身に付いているか検証する。

４．ディプロマポリシーに対する検証

・就職率や就職希望アンケート調査と実際の就職先との比較を行い検証する。また国家試験合格率から卒業までに身につけるべき能力を検証する。

・卒業時にディプロマポリシー達成度調査、就職先アンケート調査を行い、卒業時に求める人材育成が出来たか検証する。

５．アセスメントポリシーに基づく評価の実施方法

	入学時・入学後 アドミッションポリシー	在学時 カリキュラムポリシー	卒業時・卒業後 ディプロマポリシー
機関レベル	入学試験の成績、エントリーシート・調査書等の記載内容	学生の退学率、GPA 分布	卒業率、就職率、国家試験合格率
教育課程レベル	入学後の個別面談、行動特性検査（自己発見検査等）	学生の退学率、GPA 分布 スクールライフアンケート調査	ディプロマポリシー達成度調査、就職先アンケート調査
科目レベル	成績評価、レポート評価	成績評価分布、単位修得率、授業評価アンケート調査、見学実習・評価実習・臨床実習成績	

（参考）

学則　第 29 条　作業療法学科、理学療法学科は 3 年以上在学、言語聴覚学科、介護福祉学科は 2 年以上在学し、第 27 条による単位認定された者について、教員会議の議を経て学院長が卒業を認定する。

履修細則　第 9 条　進級及び卒業の認定は、教員会議の議を経て学院長が認定する。

２．報告事項

（１）各学科から令和５年度報告（令和６年３月時点）

①卒業者数、国家試験結果　②入学者数、進級者数、留年者数、退学者数

③講義・臨床実習の学生状況、④カリキュラム編成について　（①②は確定数でないため記載から除外）

【理学療法学科】

③講義・臨床実習の学生状況

○１年生／見学実習（１週間×１）
対象学生：41 名（全て学外実習）
学外実習の内容：地域リハビリテーションに関する実習
○2 年生／評価実習（２週間×１）
対象学生：41 名（全て学外実習）
学外実習の内容：診療参加型臨床実習形式で 80%実施、ハイブリット形式が 10%。従来形式が 10%でした。経験値向上目的に対象者への治療介入した学生が 43%でした。
○3 年生／総合臨床実習（8 週間×２）
対象学生：37 名（全て学外実習）
学外実習の内容：
Ⅰ期：診療参加型臨床実習形式で 41.0%実施、ハイブリット形式が 56.4%。従来形式が 2.6%
Ⅱ期：診療参加型臨床実習形式で 44.4%実施、ハイブリット形式が 38.89%。従来形式が 16.71%
④カリキュラム編成について
変更は特になし。

【作業療法学科】
③臨床実習の対応（各学年の学内実習者数、学外実習、内容）
○１年生／見学実習（１週間×1）
対象学生：34 名
夏季：R5．8 月 14 日～19 日、8 月 21 日～26 日（合計 24 名）
冬季：R6．1 月 29 日～2 月 3 日、2 月 5 日～10 日（合計 11 名）
○２年生／評価実習（３週間×1、２週間×1）
３週間：対象学生：39 名
Ⅰ期（1 月 9 日～1 月 27 日）、Ⅱ期（1 月 29～2 月 17 日）
２週間：対象学生数：39 名
Ⅰ期（1 月 10 日～1 月 20 日）、Ⅱ期（2 月 5 日～2 月 17 日）
○３年生／総合臨床実習（９週間×２）
Ⅰ期（5 月 7 日～7 月 6 日）対象学生数：38 名
Ⅱ期（7 月 25 日～9 月 24 日）対象学生数：38 名
④カリキュラム編成について
・次年度に向けてのカリキュラム変更は無いが、リハビリテーション教育評価機構の指導により従来「検査･測定実習」としてカリキュラム外で行っていたものを「評価実習」の実習期間に加えることになった。

【言語聴覚学科】
③講義・臨床実習の学生状況（各学年の学内実習数・学外実習数、内容）
1 年：例年にも増して勉強に熱心な学生が多い。一方、東京都委託訓練生の 4 名中 2 名はメンタル不調がそもそもある上、意欲低下による学業不振と欠席が重なり退校となった。残った 2 名は学業意欲が高く、問題なくできている。評価実習は COVID の影響もなくなりすべて学外実習にて実施したが、依然として、摂食嚥下障害・構音障害の症例は担当できない実習地もあった。実習成績がやや不十分な学生には学内補講を行った。
2 年：臨床実習はすべて学外実習にて実施できた。例年に比べ、症例担当制（従来型）と実習参加型の割合

は、変化せず、症例担当制が 9 割以上を占めている。国家試験対策も対面によるポイント講義と個別指導を積極的に行い、特に時間外で ZOOM、シスコ webex で支援する体制をとった。
合理的配慮の申請が 4 名（身体 1 名、発達 1 名、身体・発達 1 名、緘黙 1 名）で多い学年であった。実習では実習指導者へ職業適正の視点を持っていただきながら工夫のアドバイスをいただき対応に当たった。国家試験では、受験にあたり 2 名が環境整備の合理的配慮申請を本科から行い、他の受験者と格差が出ないよう支援を行った。
④カリキュラム編成について
言語聴覚士学校養成所カリキュラム（指定規則）の変更
2025 年 4 月より実施が決定した。本科は 2 年過程養成所のため、実施は 2026 年 4 月からとなった。
変更点
〇教育内容の見直し
①追加カリキュラム：地域言語聴覚療法・言語聴覚療法管理学など　※2025 年 5 月理事会承認予定
②臨床実習の単位数の増加：現行 12 単位　→　新規 15 単位　※本科はすでに 15 単位で構成
③臨床実習前後の評価および振り返り：実習前後の評価→客観的臨床技能検査（OSCE）の導入
振り返り→症例報告会および症例検討会など
④実習指導者要件の変更：臨床経験 5 年以上かつ臨床実習指導者講習会を修了したもの。
〇教員の配置数：現行 4 名以上　→　新規 5 名以上　※2025 年度以降は専任教員要件の規定あり
〇学習上必要な設備：指定規則の改正また老朽化し不具合が生じている機器を新調するために、今後 5 年をかけて聴覚検査機器数種類、発声発語検査機器、補聴器数種類、人工内耳調整器、騒音計を購入する。

【介護福祉学科】
③講義・臨床実習の対応（各学年の学内実習者数、学外実習、内容）
③－１講義の対応：講義演習ともに対面授業にて実施し予定のカリキュラムは終了している。新型コロナウィルス感染対策をしながら通常通り実技演習も実施した。
③－２臨床実習の対応
〇1 年生/介護実習Ⅰ-Ⅰ（5 日間）
対象学生：32 名
通所介護施設にて実施をした。1 名は心身の不調のため実習を途中終了となった。
〇1 年生/介護実習Ⅰ-Ⅱ（8 日間）
対象学生：31 名
小規模多機能型居宅介護施設、認知症対応型共同生活介護施設にて実施をした。
1 名のみ実習期間を延期して 3 月中に修了予定。
〇1 年生/介護実習Ⅰ-Ⅲ（9 日間）
対象学生：31 名
特別養護老人ホーム、介護老人保健施設にて実施をした。
〇1 年生/介護実習Ⅰ-Ⅳ（5 日間）
対象学生：31 名
障害者施設にて実施をした。
〇2 年生/介護実習Ⅱ（30 日間）
特別養護老人ホーム、介護老人保健施設にて実施をした。
対象学生：26 名
④カリキュラム編成

次年度はカリキュラムの変更は無いが非常勤教員２名を新たに採用する。学生が外出をする機会や実習前に介護施設の状況を知る機会を設けるために福祉用具機器展での学習や法人内施設などへの見学の機会を作る予定。

（２）協力要請（講義・実習）・・・岩戸副学院長兼教務部長より

2024(令和 6)年度ならびに 2025(令和 7)年度法人内依頼実習日程予定、ならびに依頼人数

2024(令和 6)年度

【PT,OT】

総合臨床実習（3 年）

PT1 期 R6.5.7(月)-6.29(土)　II 期 R6.7.22(月)-9.14(土)

OT I 期 R6.5.7(月)-7.6(土)　II 期 R6.7.22(月)-9.21(土)

総合臨床実習	I 期			II 期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ﾘﾊ病院	4	5	8	1	4	5	4	9	13
所沢中央病院	4	5	9	1	3	4	5	8	13
所沢ﾘﾊ病院	4	5	9	1	4	5	5	9	14
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	1	2	3	0	2	2	1	4	5
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	2	2	4	0	2	2	2	4	6
計	14	19	33	3	15	18	17	34	51

検査測定実習（2 年）

PT: I 期 R6.7.29(月)-30(火), II 期 7.31(水)-8.1(木),III期 8.2(金)-3(土),IV期 8.5(月)-6(火)

OT: I 期 R6.7.29(月)-8.2(金), II 期 8.5(月)-8.9(金),III期 8.13(火)-8.17(土)

検査測定実習	PT(2 日間×4)				OT(5 日間×3)		
	7.29-30	7.31-8.1	8.2-8.3	8.5-8.6	7.29-8.2	8.5-8.9	8.13-8.17
多摩ﾘﾊ病院	2	2	2	2	4	4	4
所沢中央病院	3	2	2	2	4	4	4
所沢ﾘﾊ病院	2	2	2	2	4	4	4
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	3	2	2	2	1	1	1
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	2	2	2	2	1	1	1
計	12	10	10	10	14	14	14

見学実習（1 年）前期 R6.8.13(火)-17(土) 後期 R6.819(月)-23(金)

見学実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ﾘﾊ病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢ﾘﾊ病院	4	4	8	4	4	8	8	8	16
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	0	4	4	4	4	8	4	8	12
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	2	4	6	2	4	6	4	8	12

計	6	12	18	10	12	22	16	24	40

評価実習（2 年）

PT:前期 R7.1.14(月)-2.1(土)　後期:R7.2.3(月)-2.22(土

OT:前期 R7.1.20(月)-2.8(土)

評価実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	計	PT	OT	計			
多摩ﾘﾊ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢中央病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢ﾘﾊ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	2	2	4	2	0	2	4	2	6
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	3	2	5	3	0	3	6	2	8
計	20	16	36	20	0	20	40	16	56

【ST】

臨床実習Ⅱ（2 年）

R6.7.1(月)-11.30(土)のうち 20 日間または 40 日間

臨床実習Ⅱ	20 日間	40 日間	総計
多摩ﾘﾊ病院	2	2	4
所沢中央病院	3	0	3
所沢ﾘﾊ病院	2	2	4
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	2	0	2
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	0	0	0
計	9	4	13

コミュニケーション障害演習（1 年）

Ⅰ期 R6.7.29(月)-8.2(金),Ⅱ期 R6.8.5(月)-8(金),Ⅲ期 R6.8.13(火)-16(金)

臨床実習Ⅱ	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	総計
多摩ﾘﾊ病院	3	3	3	9
所沢中央病院	3	3	3	9
所沢ﾘﾊ病院	3	3	3	9
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	1	1	1	3
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	0	0	0	0
計	10	10	10	30

※　入学予定者を 30 名として計算しております。

臨床実習Ⅰ（1 年）

Ⅰ期 2/5(月)-24(土) Ⅱ期 2/26(月)-3/16(土)

臨床実習Ⅰ	Ⅰ期	Ⅱ期	総計
多摩ﾘﾊ病院	3	3	6
所沢中央病院	3	3	6
所沢ﾘﾊ病院	3	3	6
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	2	2	4
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	0	0	0
計	11	11	22

※ 入学予定者を 30 名として計算しております。(8 名分は外部施設)

2025(令和 7)年度

総合臨床実習（3 年）PT1 期 R7.5.7(月)-6.28(土) Ⅱ期 R6.7.22(火)-9.13(土)

OT Ⅰ期 R7.5.7(月)-7.5(土) Ⅱ期 R6.7.22(火)-9.20(土)

総合臨床実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ﾘﾊ病院	5	5	10	3	4	7	8	9	17
所沢中央病院	5	5	10	3	3	6	8	8	16
所沢ﾘﾊ病院	5	5	10	3	4	7	8	9	17
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	2	2	4	0	2	2	2	4	6
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	3	2	5	1	2	3	4	4	8
計	20	19	39	10	15	25	30	34	64

検査測定実習（2 年）

PT: Ⅰ期 R7.7.28(月)-29(火),Ⅱ期 7.30(水)-31(木),Ⅲ期 8.1(木)-2(土),Ⅳ期 8.4(月)-5(火)

OT: Ⅰ期 R7.7.28(月)-8.1(金),Ⅱ期 8.4(月)-8.8(金),Ⅲ期 8.12(火)-8.16(土)

検査測定実習	PT(2 日間×4)				OT(5 日間×3)		
	7.28-29	7.30-31	8.1-8.2	8.4-8.5	7.28-8.1	8.4-8.8	8.12-8.16
多摩ﾘﾊ病院	2	2	2	2	4	4	4
所沢中央病院	2	2	2	2	4	4	4
所沢ﾘﾊ病院	2	2	2	2	4	4	4
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	2	2	2	2	1	1	1
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	2	2	2	2	1	1	1
計	10	10	10	10	14	14	14

見学実習（1 年）前期 R7.8.12(火)-16(土) 後期 8.18(月)-22(金)

見学実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ﾘﾊ病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢ﾘﾊ病院	4	4	8	4	4	8	8	8	16
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	0	4	4	4	4	8	4	8	12
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	2	4	6	2	4	6	4	8	12
計	6	12	18	10	12	22	16	24	40

評価実習（2 年）PT:前期 R8.1.13(火)-1.31(土)　後期:R8.2.2(月)-2.21(土)
OT:前期 R7.1.19(月)-2.7(土)

評価実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	計	PT	OT	計			
多摩ﾘﾊ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢中央病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢ﾘﾊ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
ﾒﾃﾞｨｹｱｲｰｽﾄ	2	2	4	2	0	2	4	2	6
ﾒﾃﾞｨｹｱ梅の園	3	2	5	3	0	3	6	2	8
計	20	16	36	20	0	20	40	16	56

（3）意見交換・その他
・外部委員からご意見・ご提案等
人見太一氏：作業療法学科にて単位修得のために救済措置を行っているが、これはあらかじめ用意されているものか。
←あくまで学則上は本試験、再試験までである。特別な措置である。

赤松栄晃氏：（臨床での実習の場面で）合理的配慮の申請があった学生など、事前に連絡のあった場合は対応が可能だが、なんとなく配慮が必要など曖昧な場合、その学生をどう成長させるかを個々の目標を立て、多様化の理解が必要と考えているが、学校として見解はどうか。
←学生は多様化が進んでいる。その都度指導者と連絡・コミュニケーションを図り、対応をお願いしたい。

池田健祐氏：職場では離職が問題となっており、働きやすさ≠働きがいとなっていない。学校では学びやすさ＝学びがいとなっているか。また、学生は何が足りていないか、どこまで到達しているかなどをルーブリック評価にて行ってみるのが良いと考える。
←専門学校として国家試験合格、資格取得が優先されるが、専門職としてのやりがいは指導している。この点

について、実習などを通じ、臨床の現場と協力しながら引き続き対応をお願いしたい。

鈴木康雄氏：最終学年での退学についてお尋ねしたい。
←学則上、最終学年は他の学年と同じく２年までとなっており、再々留年ができない。学則を変更する必要があり、検討課題である。また、本来の在籍年数以上の留年者の授業料について検討が必要である。

大堀隆二氏：卒業式に出席させて頂いた。学科毎に違いがあるのを感じた。介護福祉学科は留学生が多い印象、言語聴覚学科は大卒や社会人経験者なのできちんとしている印象、理学療法学科は現代的、作業療法学科は一般的な学生という印象であった。金髪の学生もおり、これから社会に出る者として心配な部分も感じた。
←学科毎の特色はご指摘の通りである。一方、在学中は一定のルールの元で対応している。卒業式は今まで我慢を強いられてきた学生の気持ちを考慮し、多少のことは大目に見ている。春休み期間のみで、就職する際には、きちんとしていくと考えている。社会に出た際には引き続きご指導願いたい。

黒田英寿氏：大堀氏とは青梅商工会議所を通じ、希薄となっている施設間通しの横のつながりを懸念している。サービス部会にて福祉と医療の結びつきを強くすることを検討している。

以上